

# 横浜市感染症発生動向調査報告(令和2年11月)

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	6件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件
E型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	6件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件、O26が1件、O血清群不明が1件、O128が1件、O91が1件の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型2件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路感染地域等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が3件ありました。1件は性的接触による感染が推定されています。
- 5 ウイルス性肝炎: ワクチン接種歴不明のB型肝炎の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、いずれも感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件、B群1件の報告がありました。そのうち1件は創傷感染が推定されています。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が2件(ワクチン接種歴不明1件、ワクチン接種歴1回あり1件)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 9 梅毒: 無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件の報告がありました。性別が男性3件、女性3件で、感染経路は性的接触による感染が3件(異性間2件、詳細不明1件)、不明3件でした。
- 10 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される60歳代の報告が1件ありました。

### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第43週～第47週に横浜市から報道発表のありました症例は1709件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数  
(報道発表ベース)

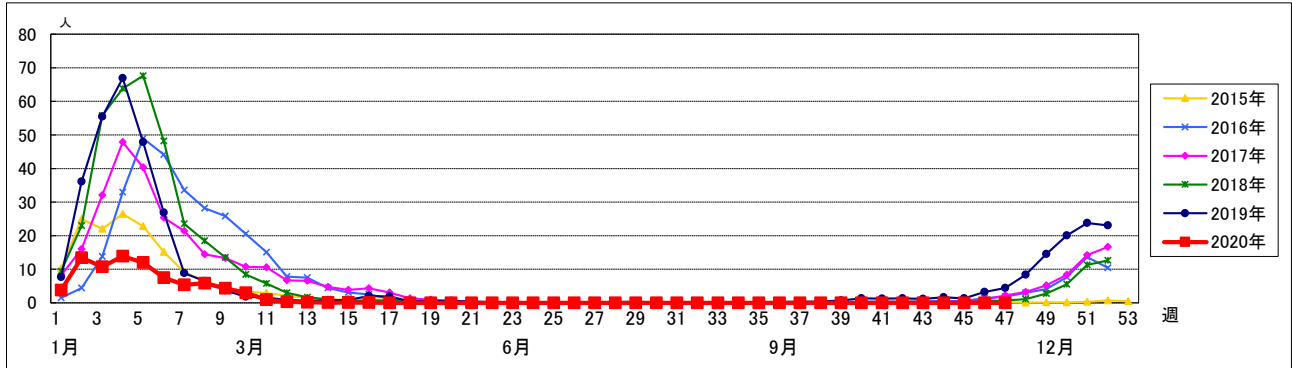


[週]

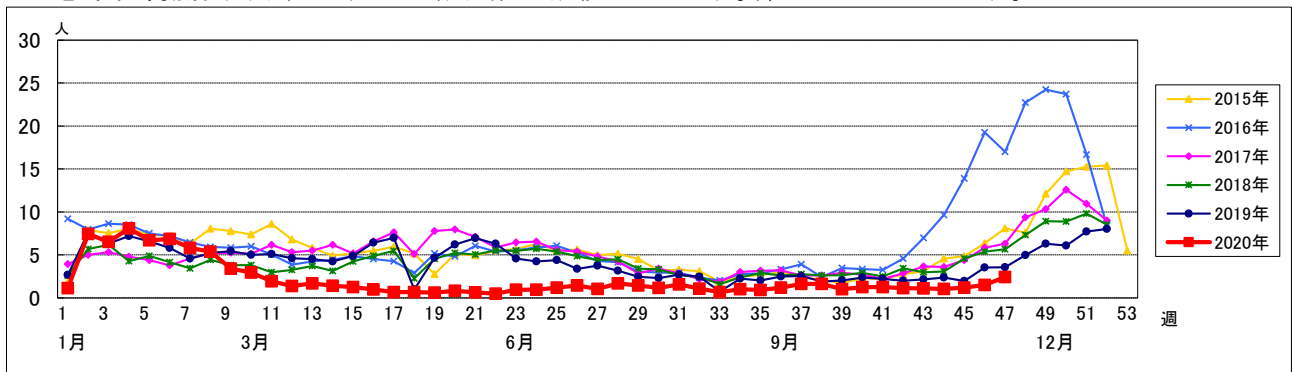
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第43週	10月19日～10月25日
第44週	10月26日～11月1日
第45週	11月2日～11月8日
第46週	11月9日～11月15日
第47週	11月16日～11月22日

1 インフルエンザ: 昨年は第40週で流行開始の目安(1.00)を上回っていましたが、今年は例年より低めの報告数で推移しており、第47週は0.01です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第47週は2.42です。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:13件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:0件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	...
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.33	0.00	...
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	...
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	...
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00	...

...:未報告

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月26日から11月22日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点5件、眼科定点4件、基幹定点1件で、定点外医療機関からは3件でした。

ライノウイルス遺伝子7件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果11月期(2020年第44週～第47週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎
ライノ	- 3	- 4
合計	- 3	- 4

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

11月期(2020年第44週～第47週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、多剤耐性緑膿菌1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、黄色ブドウ球菌1件、ノカルジア1件、非定点から過粘稠性クレブジエラ2件、レンサ球菌3件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌5件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌2件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からリケッチア2件、レプトスピラ1件、非定点からボレリア4件の検査依頼がありました。保健所からは、レジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第44週～第47週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
	多剤耐性緑膿菌	1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (1)	
	基幹定点 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
	黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
	ノカルジア	1	<i>Nocardia abscessus</i> (1)	
	非定点	過粘稠性クレブジエラ	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)
		レンサ球菌	3	<i>Streptococcus anginosus</i> (3)
		腸管出血性大腸菌	5	O157 : H7 VT2 (2)、 O26 : H11 VT1 (1)、 OUT : H45 VT2 (1)、 O177 : H- VT2 (1)
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 TUT (2)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	血清(1)・ 血しょう(1)	リケッチア	2	ツツガムシ病リケッチア(nested-PCR)陰性(2) 紅斑熱群リケッチア(nested-PCR)陰性(2)
		レプトスピラ	1	抗レプトスピラ抗体 血清型 Hebdomadis 陽性(1)
	血清(2)・ 血しょう(1)・ 全血(1)	ボレリア	4	ライム病ボレリア(リアルタイムPCR)陰性(2)、 回帰熱ボレリア(リアルタイムPCR)陰性(2)、 抗ボレリア抗体(IgG)陰性(2)、 抗ボレリア抗体(IgM)陰性(2)
保健所	喀痰	レジオネラ	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】